

令和5年度
(2023年度)

事業報告書



公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団

目 次

1	概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	各事業の実施概要	
	(1) 公益目的事業	
	① 奨学事業・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	② 留学事業・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	③ 学生寮管理運営事業・・・・・・・・	5
	④ 国際交流・協力事業・・・・・・・・	5
3	役員会等の開催	
	(1) 理事会の開催状況・・・・・・・・	12
	(2) 評議員会の開催状況・・・・・・・・	14
	(3) 各種専門委員会の開催状況・・	15
4	寄附金の受け入れと基金の設置	
	(1) 令和4年度寄附金の受入・・	17
	(2) 寄附金の実績・・・・・・・・	17
	(3) 篤志奨学基金への寄附・・	18
	(4) 既設篤志奨学基金一覧・・	18
	(5) 基金造成状況・・・・・・・・	23
5	評議員・役員	
	(1) 評議員・・・・・・・・	24
	(2) 役員・・・・・・・・	24

1 概要

本財団は、「人を樹うるに如くは莫し」（一生涯での計画を立てようとするならば人材を育成するに越したことはない。）を理念として、沖縄県内に住所を有する者の子弟のうち、学業成績優秀な学生または生徒で、経済的理由によって修学困難な者に対し、学資を貸与または給付するとともに留学助成その他必要な事業を行っています。また、海外からの留学生等の受入れ、その他国際交流・協力に関する事業を行い、もって本県の教育、文化及び産業の発展に資する国際性豊かな有為な人材の育成並びに国際交流・協力拠点の形成を図ることを目的として各事業を推進してきました。

このような事業目的へ賛同された企業、団体、個人等から今年度は3, 677, 813円のご寄附を賜りました。

また、ご寄附の受け入れにより、篤志基金に2件の積み増しがありました。

基金の活用としては、国、県、関係機関、ご寄附を頂いた方々のご協力をいただき、奨学金の貸与、国際交流・協力に関する事業へ充当いたしました。

各事業について、奨学事業のうち貸与事業では高校・大学生等1,292人に奨学金を貸与し、給付事業では、企業、団体からの委託により工業高校生、大学院生、施設内大学ブリッジプログラム及び専修学校（専門課程）生26人に、また、使途特定寄附により大学生3人に奨学金を給付しました。

返還金回収業務では10,945人に預金口座振替、返還通知・督促を行い8,932人から返還があり、その結果、回収予定額に対する返還額の割合は76.24%となり、前年度より1.04%減少しました。

県外学生寮の令和5年4月末日現在の在寮生数は、南灯寮が定員47人に対し43人、沖英寮が定員20人に対し16人、大阪寮は定員13人に対し3人となっています。

国際交流促進事業では、生活、行政手続き、労働など、様々な分野の相談に328件対応しました。また、医療通訳者を35件、病院などの医療機関に紹介しました。さらに、日本語教室を開講し、年間を通して延べ1,676名が受講しました。

在住外国人を支援する各種サポーター養成講座を開催し、各種サポーターの登録者数は計221名となりました。また、共生社会への理解を深める各種セミナー等を開催し、参加者は246名でした。

さらに、外国人による日本語弁論大会を開催し、11の国と地域の計12名が登壇しました。加えて、6つの国際交流団体へ計382,152円の助成金を交付しました。

2 各事業の実施概要

(1) 公益目的事業

① 奨学事業

本県の教育、文化及び産業の発展に資する有為な人材を育成することを目的に、学業に優れた生徒及び学生で、経済的理由により修学が困難と認められる者に対し、奨学金の貸与又は給付を行った。

奨学生は沖縄県に住所を有する者の子弟で、高校、高等専門学校、専修学校（高等課程・専門課程）・大学・大学院及び国外の大学又は大学院に在学する生徒又は学生を対象としている。

奨学金の主な財源の内訳は、貸与奨学金が返還金（97.41％）、基金の利息（1.58％）、延滞金（0.95％）及び寄附金（0.06％）で、給付奨学金は、委託給付金（7.68％）、使途特定寄附金（4.15％）、米国総領事館助成金（59.05％）及び国からの補助金（29.12％）となっている。

ア 奨学金貸与人員及び貸与額

区 分		貸与人員			貸与額(単位:千円)			財源(単位:円)
		当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減	
国内	高校育英奨学事業	993	(825)	168	245,968	(208,666)	37,302	①返還金 241,911,234
	高等学校生	761	(758)	3	191,608	(190,246)	1,362	②延滞金 4,056,766
	専修学校(高等課程)生	22	(25)	△3	8,160	(9,180)	△1,020	(小計) 245,968,000
	修学支援奨学生	210	(42)	168	46,200	(9,240)	36,960	
	高等学校奨学事業							①返還金 2,076,000
	高等学校生	9	(15)	△6	2,076	(3,484)	△1,408	
	奨学金貸与事業	290	(257)	33	177,696	(151,753)	25,943	①育英奨学基金利息 6,714,574
	高等専門学校生	4	(3)	1	1,026	(588)	438	②使途特定寄附金 250,000
	専修学校(専門課程)生	22	(22)	0	13,400	(12,915)	485	③返還金 170,731,426
	大学生	223	(199)	24	138,450	(119,610)	18,840	(小計) 177,696,000
	大学院生	18	(10)	8	16,920	(9,360)	7,560	
	在沖縄米軍施設・区域内大学							
	大学生	3	(2)	1	640	(960)	△320	
	大学院生	0	(0)	0	0	(0)	0	
	県出身海外移住者子弟留学生	1	(1)	0	720	(720)	0	
国外	大学生	17	(16)	1	6,120	(5,960)	160	
	大学院生	2	(4)	△2	420	(1,640)	△1,220	
合 計		1,292	(1,097)	195	425,740	(363,903)	61,837	

イ 奨学金貸与月額一覧表

種別		区分	貸与月額
・ 高等学校生 ・ 専修学校高等課程生	自宅通学	国公立	18,000円
		私立	30,000円
	自宅外通学	国公立	23,000円
		私立	35,000円
・ 高等専門学校生	自宅通学	国公立	21,000円
		私立	32,000円
	自宅外通学	国公立	22,500円
		私立	35,000円
・ 専修学校専門課程生 ・ 大学生	自宅通学	国公立	45,000円
		私立	50,000円
	自宅外通学	国公立	50,000円
		私立	60,000円
・ 大学院生	修士・博士前期課程		70,000円
	博士後期課程		100,000円
	修士医・歯・獣医学課程		100,000円
	一貫制博士課程	1～2年次	70,000円
		3～5年次	100,000円
・ 在沖縄米軍施設区域内大学生	短期大学生・大学生 ・ 大学院生		40,000円
・ 県出身海外移住者子弟留学生	国公立大学生		50,000円
	私立大学生		60,000円
	大学院生		70,000円
・ 国外大学生・大学院生	アジア地域		40,000円
	アジア以外の地域		60,000円

ウ 修学支援奨学金

種別	貸与年額
・ 高等学校生 ・ 専修学校高等課程生	220,000円

エ 奨学金給付人員及び給付額

区分	給与人数			給与額			財源
	当年度	前年度	増減	当年度	前年度	増減	
高校生 ^{注1}	2	(2)	0	200,000	(200,000)	0	沖縄県工業連合会からの受託金 (オグレスビー氏産業開発基金)
大学生 ^{注2}	3	(6)	△ 3	432,000	(864,000)	△ 432,000	城 英俊氏からの使途特定寄付金
大学院生 ^{注3}	5	(5)	0	600,000	(600,000)	0	琉球銀行(36万円)及び沖縄銀行(24万円)からの受託金
ブリッジ・プログラム ^{注4}	15	(30)	△ 15	6,150,723	(6,950,495)	△ 799,772	沖縄米国総領事館からの助成金(米国総領事館助成事業)
専修学校(専門課程) ^{注5}	4	(19)	△ 15	3,033,000	13,564,200	△ 10,531,200	国補助金(専修学校奨学金給付事業)
合計	29	(62)	△ 33	10,415,723	(22,178,695)	△ 11,762,972	

注1 1人当たり年額100,000円

注2 1人当たり月額 12,000円

注3 1人当たり月額 10,000円

注4 1人当たり年額410,048円(但し、円ドル為替、奨学生の数及び登録状況等により変動する)

注5 世帯の所得金額や学校区文等に応じた次の表に基づく額

世帯の所得金額 に基づく区分	国公立		私立		通信教育課程 (年額)
	自宅通学 (月額)	自宅外通学 (月額)	自宅通学 (月額)	自宅外通学 (月額)	
第Ⅰ区分	29,200円 (33,300円)	66,700円	38,300円 (42,500円)	75,800円	51,000円
第Ⅱ区分	19,500円 (22,200円)	44,500円	25,600円 (28,400円)	50,600円	34,000円
第Ⅲ区分	9,800円 (11,100円)	22,300円	12,800円 (14,200円)	25,300円	17,000円

※()の金額は、児童養護施設等から通学する奨学生の支給額

オ 奨学金の返還状況

単位：人

単位：円

		当年度	前年度	増減			当年度	前年度	増減
返還対象者	返還対象者	10,945	(11,805)	△860	返還予定額		1,007,959,692	(1,067,573,449)	△59,613,757
	返還猶予	470	536	△66	返還猶予・免除額		50,218,906	56,003,934	△5,785,028
	要返還者	10,475	(11,269)	△794	回収予定額		957,740,786	(1,011,569,515)	△53,828,729
	返還者	8,932	9,654	△722	返還済額		813,305,172	882,859,390	△69,554,218
	【前払い者】	【 262 】	【 301 】	【△39】	【前払い額】		【 83,096,759 】	【 101,154,723 】	【△18,057,964】
	滞納者	1,543	(1,615)	△72	返還率		76.24%	(77.28%)	△1.04%
	一部滞納者	1,339	1,425	△86	滞納額		227,532,373	229,864,848	△2,332,475
	全額滞納者	204	190	14					

② 留学事業

国際化時代における本県の振興、自立発展を担う高度な専門性・国際性を備えた有為な人材の育成を図るため、米軍施設・区域内大学就学希望者の推薦事業を実施した。

在沖縄米軍施設・区域内大学就学者推薦事業

令和５年度の就学希望者を対象に令和５年５月２０日にオンラインで実施した面接選考試験を踏まえ、大学６人及びブリッジプログラム２７人の計３３人を米軍施設・区域内大学へ推薦した。

推薦者の内訳

単位：人

推薦区分	推薦者人数			学費等
	当年度	前年度	増減	
大学	6	(9)	△3	学費自己負担
大学院	0	(2)	△2	
ブリッジプログラム	27	(22)	5	
合 計	33	(33)	0	

③ 学生寮管理運営事業

親元を遠く離れて県外で勉学する学生父母の経済的負担を軽減するとともに、良好な勉学環境を確保し有為な人材を育成するため、寮費や県補助金を財源に、次の３寮を管理運営している。

県外学生寮一覧表

令和５年４月末日現在

寮 名	所 在 地	定員	部屋数	入寮人員
南 灯 寮 (男子寮)	東京都狛江市岩戸北４－１４－１８ (寮費：49,200円・44,000円、個室)	47人	47室	43人
沖 英 寮 (女子寮)	東京都世田谷区豪徳寺２－２７－８ (寮費：60,800円、個室)	20人	20室	16人
大 阪 寮 (男子寮)	大阪府吹田市長野西７－３１ (寮費：24,000円、個室)	13人	13室	3人
計		80人	80室	62人

※沖縄県と県有財産賃貸借契約書により３寮を管理しています。

④ 国際交流促進事業

沖縄県の地理的・歴史的特性を活かした国際交流・協力事業等を行うことにより、本県の教育・文化・産業の発展に資するための国際性豊かで有為な人材を育成するとともに、国際交流拠点の形成を図った。

ア 多文化共生推進事業

本県における多文化共生の地域づくりを推進するため、環境整備に取り組んだ。

(ア) 在住外国人の生活支援

A 法律・生活相談

在住外国人のための多言語相談窓口を設置し、沖縄弁護士会との連携により、必要に応じて法律相談を実施した。さらに、関連するセミナーを開催することで、在住外国人

が抱える諸問題への理解促進に努めた。

a 法律・生活相談対応件数

相談内容	件数	相談内容	件数
在留資格・ビザ・旅券	39件	交通事故・損害賠償	1件
労働・賃金・解雇等	40件	対人トラブル	11件
結婚・離婚・家族等	32件	刑事・犯罪・警察	13件
医療・健康・心理相談	57件	子ども・教育・学校	5件
保険・年金	6件	税金	3件
住居・不動産	17件	相続	4件
借金・無収入・保証	5件	国籍・帰化	3件
日本語学習	17件	その他	69件
ウクライナ避難民関連	6件	合計	328件

b 外国人起業支援セミナー

街づくりの担い手を育成することを目的として、多文化共生社会の実現に貢献する意欲を持つ在住外国人を対象に、セミナーを開催した。

実施日時	2023年11月18日（土）13:30～16:00
実施場所	P's SQUARE（浦添市西原2-4-1）
講師	楊明株式会社 取締役 張 夢雅 ランティブンカ株式会社 代表取締役 ワン ティ 深海株式会社 代表取締役 潘 宗麒
参加者数	15名

c 新たな多文化共生の地域づくりセミナー

日本で子育てに奮闘する在住外国人の実体験を共有することで、多文化共生に関する理解を深め、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けてセミナーを開催した。

実施日時	2023年11月18日（土）9:00～12:00
実施場所	P's SQUARE（浦添市西原2-4-1）
講師	NPO法人WINコンコード理事 時 光
参加者数	20名

d 外国人支援スキルアップセミナー

在住外国人が直面する諸問題への理解を深め、相談対応における支援者としての役割や心構えを学ぶため、セミナーを開催した。

実施日時	2023年10月14日（土）9:00～12:30
実施場所	沖縄県市町村自治会館（那覇市旭町116-37）
講師	法テラス本部国際室長 富田 さとこ 地域国際化推進アドバイザー 村松 紀子
参加者数	40名

e リーガル・ライフサポーター養成講座

在住外国人の在留資格、労働問題、相続等の相談を通訳としてサポートできるリーガル・ライフサポーターの養成講座を開講した（今年度末現在、英語：11名、中国語：9名、韓国語：1名、スペイン語：1名、ネパール語：1名、合計23名）。

実施日時	2023年12月9日（土）9:00～12:30 2023年12月10日（日）9:00～12:30
実施場所	P's SQUARE（浦添市西原2-4-1）
講師	福岡出入国在留管理局那覇支局 上席入国審査官 山口 さつき 他
参加者数	30名

f リーガル・ライフサポーター認定テスト

リーガル・ライフサポーター養成講座の修了者を対象に、英語または中国語によるテストを実施し、合格者を当財団の「リーガル・ライフサポーター（通訳者）」として認定した。

実施日時	1次テスト：2023年12月16日（土）10:00～11:00 2次テスト：2023年12月23日（土）
実施場所	1次テスト：P's SQUARE（浦添市西原2-4-1） 2次テスト：当財団内
受験者数	1次テスト：20名（英語：17名 中国語：3名） 2次テスト：15名（英語：12名 中国語：3名）
合格者数	1次テスト：17名 2次テスト：3名

g リーガル・ライフサポーターへの通訳の依頼

リーガル・ライフサポーターへ9件（英語：7件、中国語：2件）の通訳を依頼した。

h プラットフォーム「多文化共生推進アライアンス」の認証

厚生労働省沖縄労働局、出入国在留管理庁福岡出入国在留管理局那覇支局及び当財団の3者間で締結された「在住外国人の労働・生活環境向上に向けたパートナーシップ協定」に基づき、在住外国人の労働や生活の手続き等を含めた手助けを行い、地域社会の一員として受け入れる企業や団体を「多文化共生推進アライアンス」のメンバーとして認証した（今年度末現在、23団体）。

B 医療通訳支援

医療機関等を受診する際、コミュニケーションに不安を抱える在住外国人のために、医療通訳者の養成及び紹介を行った。

a 医療通訳者養成講座

医療通訳者を養成することを目的に、通訳者に必要な心構え、医療に関する基礎知識、医療現場を想定したロールプレイ等を内容とする講座を開講した（今年度末現在、英語：16名、中国語：8名、合計24名）。

実施期間	2023年6月17日（土）～7月8日（土）
実施回数	全5回（2言語：1回3時間）
実施場所	沖縄産業支援センター（那覇市小禄1831番地1）
受講者数	24名（英語：17名 中国語：7名）

b 医療通訳者認定テスト

医療通訳者養成講座の修了者に対し、筆記試験と逐次通訳試験を実施し、合格者を当財団の医療通訳者として認定した。

実施日	1次テスト：2023年7月22日（土）10:00～11:00 2次テスト：2023年8月12日（土）9:00～12:00
実施場所	1次テスト：沖縄産業支援センター（那覇市小禄1831番地1） 2次テスト：当財団
受験者数	1次テスト：20名（英語：15名 中国語：5名） 2次テスト：7名（英語：5名 中国語：2名）
合格者数	1次テスト：7名（英語：5名 中国語：2名） 2次テスト：6名（英語：4名 中国語：2名）

c 医療通訳者の紹介

医療機関等を受診する際、コミュニケーションに不安を抱える在住外国人のために、当財団で認定した医療通訳者35件（英語：24件、英語・ロシア語：9件、スペイン語：2件）を紹介した。

C 日本語学習支援

日本語学習を希望する県内在住の外国人が、居住地や環境に関わらず、一定の質が担保された日本語クラスにアクセスできるように、ウェビナーや日本語教室を実施した。

a 日本語学習サポーター育成ウェビナー

地域における在住外国人の日本語学習を支援する「日本語学習サポーター」の育成を目的としたウェビナーを開催した。

実施日時	第1回：2023年7月8日（土）9:30～11:30 第2回：2023年10月7日（土）9:30～11:30 第3回：2024年2月17日（土）9:30～11:30
実施場所	Zoom
講師	第1回：沖縄国際大学総合文化学部 英米言語文化学科 教授 尚 真貴子 第2回：沖縄国際大学 非常勤教員 川野 さちよ 第3回：鳥取大学教育支援・国際交流推進機構 国際交流センター 教授 御館 久里恵
参加者数	57名（第1回：18名 第2回：16名 第3回：23名）

b 日本語基礎対面クラス

在住外国人が地域社会で孤立することなく、社会の一員として円滑に生活できるよう、生活に必要な基礎的な日本語の学習の場としてクラスを開講した。

実施期間	2023年4月14日（金）～2024年3月8日（金）
実施回数	全31回（金曜日19時～21時）
実施場所	当財団内
実施内容	生活に必要な日本語の基礎
受講者数	延べ342名

c ビジネス日本語

日本で働く上で必要となる実用的なコミュニケーション力やビジネスマナーの向上を目的としてクラスを開講した。

実施期間	2023年4月11日（火）～2024年3月12日（火）
実施回数	全78回（火曜日及び木曜日10時～12時）
実施場所	Zoom
実施内容	履歴書の書き方や面接の受け方、メールやビジネス文書の書き方、コミュニケーション力やビジネスマナー
受講者数	延べ269名

d 日本語個別オンラインクラス

受講者の多様なレベルやニーズ、学習できる時間や場所に対応するため、日本語教師の資格を有する当財団の日本語学習サポーターによるクラスを開講した。

実施期間	2023年4月14日（金）～2024年3月8日（金）（7時～19時）
実施場所	Zoom
実施内容	日常会話の基礎、職場で必要なコミュニケーション、日本の文化等多様なニーズに対応
受講者数	延べ1,065名（1回40分）

(イ) 災害時外国人支援

災害発生時に、当財団が開設する「災害時多言語支援センター」と協力して、外国人を支援するサポーターを養成した。また、沖縄地域防災計画に定められている関係機関等を対象としたセミナーを開催し、協働体制の構築を図った。

A 災害時外国人支援サポーター養成講座

防災・減災への意識を高め、災害時に外国人を支援する人材育成に努めた（今年度末現在、やさしい日本語：107名、英語：71名、中国語：12名、スペイン語：4名、韓国語：3名、フランス語：3名、ドイツ語：1名、インドネシア語：1名、ネパール語：1名、ベトナム語：1名、日本語のみ：34名、合計174名（複数言語対応可能なサポーターがいる））。

a 沖縄本島

実施時期	2023年5月13日（土）～6月3日（土）
実施回数	全5回（1回3時間30分）
実施場所	第1・3～5回：沖縄産業支援センター（那覇市小禄1831番地1） 第2回：沖縄県市町村自治会館（那覇市旭町116-37）
修了登録者数	16名

b 石垣島

実施日時	2023年11月25日（土）9:15～16:30 2023年11月26日（日）9:15～16:30
実施場所	大濱信泉記念館（石垣市登野城2-70）
修了登録者数	6名（既登録者他1名が聴講参加）

c 宮古島

実施日時	2024年2月16日（金）9:00～16:00 2024年2月17日（土）9:00～16:00
実施場所	宮古島市役所（宮古島市平良西里1140番地）
修了登録者数	8名（修了登録を希望しない他1名参加）

B 災害時外国人支援スキルアップセミナー

日本赤十字社沖縄県支部と協力し、災害発生時の炊き出しの注意点を確認するとともに、食物アレルギー等に対応した炊き出し実習を実施した。

実施日時	2023年11月11日（土）8:45～13:00
実施場所	日本赤十字社沖縄県支部（那覇市与儀1-3-1）
講師	日本赤十字社沖縄県支部事業推進課・救護係長 崎山 翔平 他
参加者	災害時外国人支援サポーター等33名

C 災害時に役立つ「やさしい日本語」セミナー（避難所生活期編）

災害時に発出される行政文書や避難所における表現を、より分かりやすく、誰もが理解しやすい「やさしい日本語」へ改善することを目的に、セミナーを開催した。

実施日時	2023年8月19日（土）9:00～12:00
実施場所	沖縄産業支援センター（那覇市小禄1831番地1）
参加者	21名

D 避難所運営訓練

災害時における外国人支援の円滑化を目指し、災害時外国人支援サポーターや関係機関と連携した訓練を実施した。訓練の中では、「災害時多言語支援センター」の開設も行い、外国人被災者への情報提供や通訳・翻訳サービスの提供など、多言語での支援体制の構築に努めた。

実施日時	2023年10月22日（日）8:30～12:30
実施場所	南城市役所（南城市佐敷字新里1870番地）
参加者	災害時外国人支援サポーターや地域住民等600名

E 災害危機管理セミナー

「防災・減災」に向けたまちづくりに資することを目的に、沖縄県地域防災計画の関係者を対象としたセミナーを開催した。

実施日時	2024年1月20日（土）10:00～12:00
実施場所	沖縄県市町村自治会館（那覇市旭町116-37）
講師	NPO法人災害時警友活動支援ネットワーク 代表理事 竹内 直人
参加者	沖縄県地域防災計画関係者等60名

(ウ) 国際理解協力

国際理解・協力の必要性と重要性に対する理解を醸成することを目的とした各種コンテスト等を実施した。

A English and Cross-culture Webinar

本県の次世代を担う高校生から大学院生までを対象に、グローバルマインドの育成を目的として、沖縄科学技術大学院大学の研究者及びスタッフと連携し、アウトプット型のウェビナーを開催した。

第1回	2023年6月10日（土）8:45～12:00 参加人数：25名
第2回	2023年9月2日（土）8:45～12:00 参加人数：5名
第3回	2023年12月2日（土）8:45～12:00 参加人数：4名
第4回	2024年2月24日（土）8:45～12:00 参加人数：9名

B 国際理解・国際協力のための中学生の作文コンテスト

日本国際連合協会が実施する「国際理解・国際協力のための中学生の作文コンテスト中央大会」に出品する作文を選定するため、沖縄県地方大会を開催した。

募集期間	2023年6月5日（月）～9月4日（月）
応募者	県内中学校10校から72編
その他	沖縄県地方大会で最優秀賞を受賞した沖縄県立開邦中学校2年島袋莉安さんが、中央大会において佳作を受賞した。

C The Second Annual English Presentation Contest

英語力向上だけではなく、ICTの活用やプレゼンテーション能力の向上、多角的な視野を持った論理的な独創性や批判的思考力の育成も目的として、英語以外を母語とする県内在住の中学生以上の学生を対象としたコンテストを実施した。

実施日時	2023年10月28日（土）13:00～16:00
実施場所	沖縄科学技術大学院大学（恩納村谷茶1919番地1）
登壇者	中学生及び高校生の計9名

D 第41回外国人による日本語弁論大会

県内に在住する外国人を対象に、国際交流・国際親善の機会と、日本・沖縄の社会や文化に関する日本語での発表機会を提供した。この取り組みを通して、相互理解の増進と友好親善を促進した。

実施日時	2024年2月10日（土）13:00～16:00
実施場所	パレット市民劇場（那覇市久茂地1丁目1番1号 パレットくもじ9F）
登壇者	11の国と地域の計12名

(エ) 国際交流団体連携

多文化共生のまちづくり推進のため、関連会議の開催と国際交流機関・団体との連携を図った。

A ダイバーシティ沖縄推進会議

多文化共生社会の実現に向けた課題解決を図ることを目的に、県内の在住外国人が直面する課題をテーマごとに聴取し、協議する会議を実施した。

実施日時	第1回：2023年5月31日（水） 第2回：2023年7月31日（月） 第3回：2023年10月10日（火） 第4回：2024年2月13日（火）
実施回数	全4回（14時～16時）
実施場所	P's SQUARE（浦添市西原2-4-1）
検討テーマ	第1回：長期的展望からの国際交流課運営について 第2回：外国人から見た多文化共生・多文化共生の必要性・意義について 第3回：外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策について 第4回：本推進会議の総括について
構成員	■琉球大学国際地域創造学部国際言語文化プログラム 教授 Till Weber ■HerLifeLab株式会社 最高経営責任者/創設者 Elisseeva Olga ■法律事務所春 弁護士 白 充 ■株式会社琉球新報社デジタル推進局デジタル編集グループ 主任 呉 俐君 ■沖縄ネパール友好協会 幹事長 オジャ ラックスマン ■沖縄大学 ベトナム語非常勤講師 グュエン・ド・アン・ニエン

B 国際交流団体助成

多文化共生社会の推進や国際理解・国際協力の促進、及び国際交流事業を行う民間交流団体等へ助成金を交付した。

- a 助成件数：6件
- b 助成額：382,152円

団体名	事業名	助成金額
小橋川こども会	国際交流運動会	21,000円
周霞沖縄二胡愛好会	華は咲く～ 周霞と沖縄の仲間たちの二胡コンサート	70,000円
沖縄ハワイ協会	第1回ハワイフェスティバル in Okinawa	70,220円
沖縄ボリビア協会	母県沖縄とボリビア農業高校交流プロジェクト	37,555円
沖縄インドネシア友好協会	インドネシア・バリ舞踊・八重山舞踊の鑑賞と交流in 八重山	100,000円
在沖縄県ベトナム人協会	文化交流フェスティバル	83,377円

C おきなわ国際協力・交流フェスティバルの後援

D 地域国際化協会等会議参加

- a 地域国際化協会連絡協議会総会（東京都）
- b 九州地区地域国際化協会連絡協議会総会（熊本県）
- c 九州地区地域国際化協会連絡協議会実務者研究会（福岡市：Zoom）
- d 沖縄地域留学生交流推進協議会総会への参加（那覇市）

E 広報誌の発行

- a 年報誌「国際おきなわ」：年1回発行
- b 情報誌「いちやり場通信」：年3回発行

3 役員会等の開催

(1) 理事会の開催状況

①第1回理事会（令和5年4月1日（決議の省略））

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団代表理事(理事長)の選定について	承 認

②第2回理事会（令和5年5月12日（決議の省略））

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	令和5年度第1回評議員会(臨時)の日時及び場所並びに目的である事項等について	承 認

③第3回理事会（令和5年5月30日）

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和4年度事業報告について	承 認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和4年度収支決算(財務報告)について	承 認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団専門委員会委員の選出について	承 認
	4	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金貸与規程の一部改正について	承 認
	5	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団奨学金給付規程の全部改正について	承 認
	6	令和5年度第2回評議員会(定時)の日時及び場所並びに目的である事項等について	承 認

報 告	1	令和4年度監査報告
	2	基本財産の運用状況について
	3	理事長職務執行状況報告

④第4回理事会（令和5年6月27日（決議の省略））

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団代表理事(理事長)の選定について	承 認

⑤第5回理事会（令和5年10月20日）

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団事務所の移転について	承 認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和5年度収支予算の補正について	承 認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団固定資産の処分について	承 認
	4	令和5年第3回評議員会(臨時)の日時及び場所並びに目的である事項等について	承 認

⑥第6回理事会（令和6年3月14日）

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和5年度収支予算の補正について	承 認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和6年度事業計画について	承 認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和6年度収支予算について	承 認
	4	令和5年度第4回評議員会(臨時)の日時及び場所並びに目的である事項等について	承 認

報 告	1	理事長職務執行状況報告
-----	---	-------------

(2) 評議員会の開催状況

①第1回評議員会（令和5年5月19日（決議の省略））

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団評議員3名の選任について	承 認

②第2回評議員会（令和5年6月27日（決議の省略））

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和4年度事業報告について	承 認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和4年度収支決算(財務報告)について	承 認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団役員の選任について	承 認

報 告	1	令和4年度監査報告
	2	基本財産の運用状況について
	3	理事長職務執行状況報告

③第3回評議員会（令和5年10月31日）

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和5年度収支予算の補正について	承 認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団固定資産の処分について	承 認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団評議員の選任について	承 認

報 告	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団事務所の移転について
-----	---	--------------------------------

④第4回評議員会（令和6年3月22日）

区 分	議 案 号	議 案 事 項	結 果
議 題	1	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和5年度収支予算の補正について	承 認
	2	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和6年度事業計画について	承 認
	3	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団令和6年度収支予算について	承 認
	4	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団監事の選任について	承 認
報 告	1	理事長職務執行状況報告	

(3) 各種専門委員会の開催状況

① 第1回 奨学生選考委員会（令和5年6月7日）

区 分	諮問 番号	議 案 事 項	結果	備 考
議 題	1	令和5年度大学院貸与奨学生の選考について	承認	大学院 10人
	2	令和5年度大学貸与奨学生の選考について	承認	大学 62人
	3	令和5年度専修学校（専門課程）貸与奨学生の選考について	承認	専修(専門) 12人
	4	令和5年度高等専門学校貸与奨学生の選考について	承認	高専 1人
	5	令和5年度高等学校奨学生の選考について	承認	高等 2人
	6	令和5年度高校育英貸与奨学生の選考について	承認	高育 230人
	7	令和5年度高校育英貸与奨学生 (専修学校(高等課程))の選考について	承認	高育(専修高等) 7人
	8	令和5年度修学支援奨学金の選考について	承認	修学 140人
				計 464人
	9	令和5年度委託給与奨学生の選考について	承認	委託給与 1人

② 第2回 奨学生選考委員会（令和5年11月22日）

区 分	諮問 番号	議 案 事 項	結果	備 考
議 題	1	令和5年度留学貸与奨学生の選考について	承認	留学 5人
	2	令和5年度在沖縄米軍施設・区域内大学貸与奨学生の選考について	承認	施設 1人
	3	令和5年度大学院貸与奨学生(追加採用)の選考について	承認	大学院 2人
	4	令和5年度大学貸与奨学生(追加採用)の選考について	承認	大学 8人
	5	令和5年度専修学校(専門課程)貸与奨学生(追加採用)の選考について	承認	専修(専門) 1人
	6	令和5年度高校育英貸与奨学生(追加採用)の選考について	承認	高育 33人
	7	令和5年度高校育英貸与奨学生(専修学校(高等課程))の選考について	承認	高育(専修高等) 2人
	8	令和5年度修学支援奨学生の選考について	承認	修学 26人
				計 78人
	9	令和6年度大学貸与奨学生(予約採用候補者)の選考について	承認	大学 66人
	10	令和6年度高校育英貸与奨学生(予約採用候補者)の選考について	承認	高育 74人
	11	令和6年度修学支援奨学生(予約採用候補者)の選考について	承認	修学 48人
				計 188人

③ 第1回 在沖縄米軍施設・区域内大学就学者推薦委員会（令和5年6月15日）

区 分	諮問 番号	議 案 事 項	結果	備 考
議 題	1	令和5年度在沖縄米軍施設・区域内大学就学に係る被推薦者の選考について	承認	大学院 0人 大学 6人 ブリッジプログラム 27人 計 33人

4 寄附の受け入れと基金の設置

(1) 令和5年度寄附金の受入

令和5年度は個人・団体から延べ7件、総額3,677,813円の寄附があった。寄附者は下記のとおり。（敬称略、寄附順）

令和5年度寄附者名簿

番号	寄附者氏名	寄附金額	寄附者の指定用途
1	医療法人大平会	1,000,000	学生寮管理運営事業、奨学金貸与等事業、国際交流促進事業に係る事務費及び管理費
2	屋宜 宣章	30,000	学生寮管理運営事業に係る事務費
3	伊波 寛	250,000	大学生に対する貸与奨学金の原資
4	一般社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会	1,000,000	奨学事業に係る基金
5	沖縄県国際交流・人材育成財団留学生会	497,813	奨学事業に係る事務費
6	公益社団法人久米国鼎会	700,000	奨学事業に係る基金
7	一般社団法人沖縄県測量建設コンサルタンツ協会	200,000	学生寮管理運営事業、奨学金貸与等事業、国際交流促進事業に係る事務費及び管理費
合 計		3,677,813円	

(2) 年度別寄附金の実績

① 人材育成事業の寄附金の推移は次のとおりである。（単位：円）

年 度	昭26～昭56	昭57～平20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27
寄附件数	1,781	4,543	39	35	29	24	20	21	25
金 額	190,752,185	1,223,669,834	31,815,002	37,334,200	12,265,240	9,450,430	3,400,508	3,810,000	34,129,263
年 度	平成28	平成29	平成30	令和1	令和2	令和3	令和4	令和5	合 計
寄附件数	23	25	20	19	14	11	22	7	6,658
金 額	9,196,313	9,656,000	5,655,460	5,553,560	16,648,701	4,630,000	39,071,060	3,677,813	1,640,715,569

② 国際交流・協力事業への寄附金の推移は次のとおりである。（単位：円）

年 度	昭56～平12	平成13～24	平成25	平成27	平成28	令和2	令和3	計
寄附件数	—	15	1	1	1	2	2	22
金 額	74,572,031	2,670,808	50,000	119,350	101,563	800,000	700,000	79,013,024

(3) 篤志奨学基金への寄附

令和5年度は、2つの既設奨学基金に対し追加の寄附があり、金額は合計で1,700,000円であった。

- ① 「沖縄県軍用地等地主会連合会奨学基金」
寄 附 者：一般社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会
今回寄附金： 1,000,000円
寄附金合計：28,000,000円
- ③ 「公益社団法人久米国鼎会奨学基金」
寄 附 者：公益社団法人久米国鼎会
今回寄附金： 700,000円
寄附金合計：20,061,000円

(4) 既設篤志奨学基金一覧

財団法人沖縄県育英会設立以降、篤志家が沖縄県の人材育成のためにと本財団に寄附した寄附金のうち、その額が1千万円以上については寄付者の功績をたたえ、その名を永劫に残すとともに、それによって県民の人材育成に対する意識の高揚を目指して、篤志奨学基金設置規程に拠り、その寄附金に対して寄付者の名称を冠している。

令和6年3月末現在(単位:円)

番号	篤志奨学金の名称	基金額	趣旨
1	瀬長良直奨学基金 (東京都新宿区：昭和47年)	12,500,000	東京の三越百貨店を退職なさった時の退職金の一部を本土復帰を記念して沖縄の後輩のために奨学金として
2	下地玄信奨学基金 (大阪府豊中市：昭和48年)	25,000,000	日本公認会計士協会副会長・近畿支部長を勤めた下地玄信氏が、本土復帰を記念して自分もかつて沖縄県奨学生だったので、その恩返しも含めて
3	日高妙子奨学基金 (大阪府和泉市：昭和48年)	10,000,000	母校国立東京芸術大学音楽学部（元上野音楽学校）に沖縄県出身の後輩が入学した場合、自分も音楽学校在学中月々の学費に困ったことがあり、優秀な音楽家を育てたいとの趣旨
4	日高詠明奨学基金 (大阪府和泉市：昭和50年)	10,000,000	日高妙子様から「名護市出身の亡夫詠明氏の沖縄県の人材育成の資に供してもらいたい。」との遺志により
5	生命保険奨学基金 (那覇市：昭和49年)	115,728,000	民間の生命保険会社において、戦前沖縄でご加入いただいた生命保険契約について特別の分配金を付加して支払い、完了することができたが、約1億円ちかい未払い額を残すことになり、そこで生命保険会社では、沖縄のためにとの趣旨
6	沖縄銀行奨学基金 (那覇市：昭和51年)	25,000,000	同銀行の創立20周年記念

番号	篤志奨学金の名称	基金額	趣旨
7	琉球銀行奨学基金 (那覇市：昭和53年)	26,000,000	同銀行の創立30周年記念
8	琉球石油奨学基金 (那覇市：昭和55年)	23,000,000	会社創立30周年を記念
9	金城善信奨学基金 (那覇市：昭和56年)	27,000,000	名護市済井出出身・丸善第一産業株式会社社長・第一食糧株式会社元取締役を歴任した金城善信氏が、沖縄県の振興開発を担う人材を育成するために
10	赤嶺仁平奨学基金 (浦添市：昭和58年)	40,000,000	古希を迎えたのを記念に社会に役立ちたいと「人材育成は早くからの念願だった。少しでも役に立ってもらったら幸いです。」との趣旨
11	ひめゆり同窓会奨学基金 (那覇市：昭和58年)	100,000,000	同窓会の事業目的を生かすべく、教育機関の設立や奨学事業資金として集めた額を、沖縄県の女子教育のための奨学資金として活用してもらいたい。
12	沖縄海邦銀行奨学基金 (那覇市：昭和62年)	20,000,000	株式会社 沖縄海邦銀行は、普通銀行へ転換し、新生「沖縄海邦銀行」としてスタートした記念
13	又吉久正奨学基金 (那覇市：昭和63年)	10,000,000	知事が行政施策の重点に上げている「社会福祉の充実」「人材育成の振興」「国際交流の振興」の各事業について、日頃から共感し、これらの事業の推進の一助として
14	K婦人（東京在）奨学基金 (東京都：平成元年)	10,000,000	東京に住む匿名の七十代の女性から、終戦直後、沖縄県出身の友人から悲惨な沖縄戦の模様を聞き、そのことを心にとめ、「沖縄のみなさんへのお見舞いと次代を担う若い人たちのために活用してもらいたいとの気持ちから」
15	方治先生中琉友好記念奨学基金 (中流文協：平成元年)	11,049,724	中琉友好親善交流に多大な功績を残した故方治先生の未亡人沈士芳女史から、中琉文化経済協会を通じて、故方治先生の沖縄の青年育成と中琉友好協力の遺志を達成するために。
16	琉球セメント奨学基金 (那覇市：平成元年)	20,000,000	平成元年、創立30周年を記念し、また、沖縄県の次代を担う有為な人材育成に役立てて欲しいと寄附を頂き創設された。
17	おきでん民営化記念奨学基金 (浦添市：昭和48年)	100,000,000	沖縄電力株式会社社長松岡政保氏が、昭和48年から毎年寄附し5年後「沖縄電力奨学基金」を設立した。その後、民営化に伴う記念事業として寄附され、基金の名称も「おきでん民営化記念奨学基金」とした。
18	サンエー奨学基金 (宜野湾市：平成2年)	85,000,000	同社は、ご支援御愛顧を賜りました県民の皆様に感謝し、創立45周年を記念して

番号	篤志奨学金の名称	基金額	趣旨
19	沖縄協会奨学基金 (東京都千代田区：平成2年)	10,000,000	戦後の沖縄の復興、人材育成、復帰等に多大な貢献をしてこられた財団法人沖縄協会は、沖縄県の21世紀を担う有為な人材を育成するため
20	和宇慶朝善奨学基金 (沖縄市：平成2年)	50,000,000	和宇慶朝善氏は、生前、常日頃から本県の振興開発に深い関心を払われ、遺産を何か県に役立てて貰いたいと話されており、一周忌を終えるにあたり、家族のみなさまが、故人の御意志に沿い寄附をされた。
21	大城鎌吉奨学基金 (那覇市：平成3年)	10,000,000	大城鎌吉氏は、昭和57年から毎年の寄附があり、10年後に基金を設立した。
22	国場幸太郎奨学基金 (那覇市：平成3年)	11,000,000	国場組の創設者である、故国場幸太郎氏は、生前から本県の振興開発に強い関心を払われ、その人材育成に熱心であり、故人の遺志に沿い創立60周年を記念して
23	金秀グループ奨学基金 (那覇市：平成4年)	14,500,000	金秀本社社屋落成記念及び創業20周年記念して
24	公立学校等退職記念奨学基金 (退職者：平成4年)	40,459,527	退職するに当たって、県の人材育成策に協力しその奨学事業の一助とするため、退職金から1万円ずつ出し合い「退職記念人材育成基金」をつくり、財団に贈呈。この基金造成は、昭和62年度に始まり、後輩に引き継ぎ郷土の発展を担う多様な人材の育成を側面から支えていきたい
25	奨学生卒業記念奨学基金 (父母：平成5年)	30,527,333	当財団の奨学生の父母で組織する「沖縄県人材育成財団奨学生父母の会」は、育英奨学制度の恩恵を受けたことに対する感謝の念を具現化するため
26	沖縄返還20周年記念行事 民間実行委員会奨学基金 (東京都千代田区：平成5年)	20,000,000	実行委員長 竹下登、委員長代行 小渕恵三、幹事 末次一郎氏は、沖縄返還20周年を記念して、政府主催による記念式典、記念セミナー、記念シンポジウム等「沖縄返還の歴史的意義と新しい時代の日米関係の展望」を開催し、沖縄返還に関する学術的研究と歴史的資料を作成するなど、多彩な記念行事を行い、各方面から寄せられた協力金の一部を沖縄に対する何らかの寄与したいことから、人材育成に役立ててもらいたいとの趣旨
27	大同火災海上保険奨学基金 (那覇市：平成6年)	46,100,000	創立20周年記念
28	オリオンビール奨学基金 (浦添市：平成9年)	10,000,000	創立25周年を迎えるにあたり、報恩感謝、地域社会への貢献。創立40周年記念と併せて設立
29	留学記念奨学基金 (留学生：平成13年)	12,469,293	財団の助成を受けて国外留学した者で組織する「沖縄県国際交流・人材育成財団留学生会」が1人でも多くの留学生が派遣出来るよう財団の基金造成事業に協力することを決定した。

番号	篤志奨学金の名称	基金額	趣旨
30	小渕恵三メモリアル奨学基金 (那覇商工会議所：平成13年)	10,000,000	小渕恵三総理の功績と英断に対し感謝の意を込めて、平成13年4月23日サミット開催地であった「万国津梁館」の敷地内に「小渕恵三／九州・沖縄サミットメモリアル」を建立、資金は広く県民から募り予定額以上が集り、その一部を人材育成にとの趣旨
31	医療法人大平会奨学基金 (浦添市：平成13年)	31,500,000	嶺井進院長より、将来を担う人材の育成に役立ててもらいたいとの趣旨
32	儀間教育振興会奨学基金 (浦添市：平成14年)	14,000,000	儀間常亀氏は、平成5年人生の節目となる米寿を迎えるにあたり、財団法人儀間教育振興会を設立。同財団の設立許可を得られた記念に、儀間常亀市の育英事業の趣旨に沿うべく当財団への寄附となった。
33	サダちゃん先生奨学基金 (那覇市：平成15年)	10,000,000	座波貞子氏は、興南高等学校で家庭科教えておられる教諭で、平成6年から毎年寄附いただき、平成15年度に御自身出版された「サダちゃん先生」のタイトルを名称として設立した。
34	比嘉正範奨学基金 (滋賀県大津市：平成15年)	10,000,000	故比嘉正範先生は、1950年第一回ガリオア留学生として米国派遣され、ハーバード大学から教育博士号を授与された。先生のご逝去にあたり、これからの沖縄県の振興発展に寄与できる人材の育成に役立てていただきたいという、真弓夫人の意志に基づき設立
35	儀間紀善奨学基金 (那覇市：平成15年)	10,000,000	平成12年2月にジーマ(株)・ジーマックス(株)会長就任記念として
36	沖縄ガス創業者 湧川善三郎奨学基金 (那覇市：平成17年)	10,000,000	本県の発展に寄与する国際性豊かな人材の育成に役立ててよう1千万円寄附された。会長で創業者の湧川善三郎氏(故人・平成17年7月26日ご逝去)の育英事業へのご功績を称え「沖縄ガス創業者 湧川善三郎奨学基金」を創立
37	沖縄県軍用地等地主会連合会奨学基金 (那覇市：平成17年)	28,000,000	沖縄県の次代を担う有為な人材育成に役立ててほしいと、平成13年に2百万円、平成15年に4百万円、平成16年と平成18年に2百万円のご寄附があり、累計で1千万円となりましたので「沖縄県軍用地等地主会連合会奨学基金」を創立
38	源河朝明 幸子奨学基金 (東京都世田谷区：平成17年)	50,000,000	沖縄県の次代を担う有為な人材育成に役立ててほしいと、平成18年1月13日に5千万円の御寄附をいただき、ご本人と奥様のお名前を冠して「源河朝明 幸子奨学基金」を創立
39	沖縄県立農林学校同窓会奨学基金 (嘉手納町：平成18年)	100,000,000	思い出の土地を、未来を担う若者の人材育成に役立てて頂きたいと1億円の御寄附をいただき、「沖縄県立農林学校同窓会奨学基金」を創立

番号	篤志奨学金の名称	基金額	趣旨
40	オーキッドバウンティ夢基金 (那覇市：平成18年)	10,000,000	ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメントのプロアマ大会御出場各位の御理解と御支援のを基に浄財を募り「オーキッドバウンティ」と称して、大会開催地である沖縄県の芸術・文化、スポーツ、教育等の振興に携わる公益団体等へ、その活動を支援することを目的に、寄附金又は奨励金を贈呈しているもので、審査の結果、その寄附金の贈呈先として当財団が選出されたものです。寄附金は、平成10年から平成18年の間に計900万円をいただき、平成19年に100万円をいただいたことから、累計で1千万円となりましたので、「オーキッドバウンティ夢基金」を創立
41	公益社団法人久米国鼎会奨学基金 (那覇市：平成21年)	20,061,000	沖縄県の人材育成に広く役立てて欲しい、学費の関係で進学できないでいる学生にこまやかな部分からの支えに使ってもらいたい、これからの社会の担う子供たちに夢と希望を与えて頂きたい等の趣旨により、昭和47年から、当財団へ寄附して頂いているもので、平成21年度の御寄附で1,000万円に達したことにより創設
42	吉永久仁男奨学基金 (東京都三鷹市：平成24年)	10,000,000	戦争中は、筆舌に尽くし難い犠牲を払われ、現在も基地問題等で大きな負担をしておられる沖縄県の皆様方の為、本土の人間として少しでもお役に立ちたいとの思いから、沖縄県の将来を担う人材育成の為、財団を通じお手伝いをさせていただくことにしたもの等の趣旨により、平成16年から、当財団へ寄附して頂いているもので、平成24年度の御寄附で1,000万円に達したことにより創設された基金
43	伊波喜正奨学基金 (東京都小平市：令和4年)	20,000,000	故 伊波喜正様は、かねてより当財団の奨学制度を利用し勉学に励むことができたと御息女・御子息へお話しされており、沖縄の学生たちが家計難で勉学を諦めることが無いよう、父の意思を後生へ引き継ぎたいとの申し出により御寄附を行い、亡き父の名を冠して「伊波喜正奨学基金」を創設された基金
基金の合計		1,258,894,877	

(5) 基金造成状況

当財団の基金は、昭和28年（1953年）3月に特殊法人琉球育英会の設立にあたり、琉球政府が運用資金として拠出したのが始まりで、沖縄県育英会、沖縄県人材育成財団に引き継がれ、現財団に引き継がれた基金である。

令和6年3月31日現在の基金総額は下記表のとおり4,398,496千円で、その内個人・団体からの寄附金（沖縄県及び市町村からの寄附金を除く。）の総額は1,644,828千円となり、基金総額に占める割合は37.4%となっている。

① 人材育成事業

(単位：千円)

基金の種類	金額	割合(%)
1. 県出捐金	540,500	15.2
(1) 沖縄県からの出資金	(510,000)	(14.3)
(2) 琉球政府からの出資金	(30,500)	(0.9)
2. 市町村出捐金	200,000	5.6
3. 国からの補助金等	1,108,843	31.2
4. 対米請求権奨学基金	142,000	4.0
5. 個人・団体からの寄附金	1,564,816	44.0
合 計	3,556,159	100.0

② 国際交流事業

(単位：千円)

基金の種類	金額	割合(%)
1. 沖縄県からの寄附金	662,325	78.6
2. 市町村からの寄附金	100,000	11.9
3. 個人・団体からの寄附金	80,012	9.5
合 計	842,337	100.0

総合計 (前年度)	4,398,496 (4,396,796)
--------------	--------------------------

5 評議員・役員

(1) 評議員

令和6年3月31日現在

評議員	岸 本 洋 平	沖縄県PTA連合会会長
評議員	與那覇 信 子	沖縄県女性連合会会長
評議員	我 謝 育 則	沖縄県工業連合会専務理事
評議員	島 洋 子	琉球新報社編集局局長
評議員	上江洲 隆	沖縄県高等学校長協会会長
評議員	山 田 みさよ	沖縄県教育庁教育管理統括監
評議員	高江洲 昌 幸	沖縄県文化観光スポーツ部文化スポーツ統括監

(2) 役員

令和6年3月31日現在

理 事	宮 城 淳	沖縄県国際交流・人材育成財団理事長
理 事	福 治 嗣 夫	沖縄県商工会議所連合会常任幹事
理 事	金 城 克 也	沖縄県経営者協会会長
理 事	半 嶺 満	沖縄県教育委員会教育長
理 事	下 地 イツ子	沖縄県高等学校PTA連合会会長
理 事	吉 本 靖	琉球大学国際地域創造学部長
理 事	倉 科 和 子	独立行政法人国際協力機構沖縄センター所長
監 事	上 里 芳 弘	沖縄県中小企業団体中央会専務理事
監 事	曾 根 淳	沖縄県市長会事務局長